



613-001684 Rev.B 130301

CentreCOM® x510シリーズ 取扱説明書

ギガビット・インテリジェント・スタックابلスイッチ

CentreCOM® x510シリーズ

取扱説明書

CentreCOM® x510 シリーズ

取扱説明書

本製品のご使用にあたって

本製品は、医療・原子力・航空・海運・軍事・宇宙産業など人命に関わる場合や高度な安全性・信頼性を必要とするシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用を意図した設計および製造はされていません。

したがって、これらのシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで本製品が使用されることによって、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的または間接的または付随的なものであるかどうかにかかわらず、弊社は一切の責任を負いません。

お客様の責任において、このようなシステムや機器としての使用またはこれらに組み込んで使用する場合には、使用環境・条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策・火災延焼対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなど万全を期されるようご注意願います。

安全のために

必ずお守りください

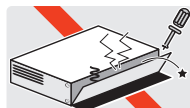


警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときは
さわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電のおそれがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電のおそれがあります。



設置場所
注意

表示以外の電圧では使用しない

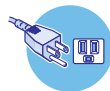
火災や感電の原因となります。
本製品は AC100-240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの 3 ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの 3 ピン電源コンセントに接続してください。



3ピン
コンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動の時は電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

ケーブル類を傷つけない

特に電源ケーブルは火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものをのせない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・ケーブル類をコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

適切な部品で正しく設置する

取扱説明書に従い、適切な設置部品を用いて正しく設置してください。

指定以外の設置部品の使用や不適切な設置は、火災や感電の原因となります。



正しく設置

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（仕様に定められた環境条件下でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほごりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊されるおそれがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えたりしないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



プラグを
抜く

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったもので拭き、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらさない



中性洗剤
使用



固く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

石油・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん・みがき粉（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

はじめに

このたびは、CentreCOM x510シリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

CentreCOM x510シリーズは、10/100/1000BASE-TポートとSFP+スロットを装備したギガビット・インテリジェント・スタックابلスイッチです。

AT-x510-28GTX / AT-x510-28GPXは10/100/1000BASE-Tポートを24ポートとSFP+スロットを4スロット装備、AT-x510-52GTX / AT-x510-52GPXは10/100/1000BASE-Tポートを48ポートとSFP+スロットを4スロット装備しています。このうち、AT-x510-28GPXとAT-x510-52GPXの10/100/1000BASE-Tポートは、IEEE 802.3at準拠のPoE (Power over Ethernet) 給電機能に対応しています。

SFP+スロットはオプション(別売)のSFP/SFP+モジュールの追加により、多様な光ポートの実装が可能です。

また、4個のSFP+スロットのうち2個は、バーチャルシャシスタック (VCS) 機能によるスタック接続用のポートとして使用することができます。複数のスイッチをオプション(別売)のスタックモジュールで接続することにより、仮想的に1台のスイッチとして動作させることができます。

本製品搭載のファームウェア「AlliedWare Plus (AW+)」は、各機能がモジュールとして分割されており、単一の障害が与える影響範囲を最小限に抑えることができるシステムになっています。これにより、旧来の方式の製品と比べシステム全体の可用性が格段に高まります。

また、業界標準のコマンド体系に準拠し、他社製品からの移行においても、エンジニアの教育にかかる時間と経費を大幅に削減することができます。

Telnet、コンソールポートから各機能の設定が可能で、ユーザーインターフェースはコマンドライン形式をサポートしています。また、SNMP機能の装備により、SNMPマネージャから各種情報を監視・設定することができます。

最新のファームウェアについて

弊社は、改良(機能拡張、不具合修正など)のために、予告なく本製品のファームウェアのバージョンアップやパッチレベルアップを行うことがあります。最新のファームウェアは、弊社ホームページから入手してください。

なお、最新のファームウェアをご利用の際は、必ず弊社ホームページに掲載のリリースノートの内容をご確認ください。

<http://www.allied-tesesis.co.jp/>

マニュアルの構成

本製品のマニュアルは、次の4部で構成されています。

各マニュアルをよくお読みのうえ、本製品を正しくご使用ください。取扱説明書はお読みになったあとも製品保証書とともに大切に保管してください。

○ 取扱説明書（本書）

本製品のご使用にあたり、最初に必要な準備や設置のしかたについて説明しています。設置や接続を行う際の注意事項も記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

○ コマンドリファレンス（弊社ホームページに掲載）

本製品で利用できるすべての機能とコマンドについて詳しく説明しています。各機能の使用手法やコマンドの解説に加え、具体的な設定例も数多く掲載しています。コマンドリファレンスは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

トップメニュー

各章へのリンクが表示されます。各章は機能別におおきなグループ分けがされています。

サブメニュー

各章の機能別索引が表示されます。章内は機能解説とコマンドリファレンスで構成されています。



コマンドリファレンス画面

○ VCS設定/運用マニュアル（弊社ホームページに掲載）

VCSの設定に関する情報が記載されています。

VCS設定/運用マニュアルは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

○ リリースノート（弊社ホームページに掲載）

ファームウェアリリースで追加された機能、変更点、注意点や、取扱説明書とコマンドリファレンスの内容を補足する最新の情報が記載されています。リリースノートは本製品には同梱されていません。弊社ホームページに掲載されています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

はじめに

表記について

アイコン

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意味	説明
 ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
 注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
 警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
 参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

書体

書体	意味
Screen displays	画面に表示される文字は、タイプライター体で表します。
User Entry	ユーザーが入力する文字は、太字タイプライター体で表します。
	四角枠で囲まれた文字はキーを表します。

製品名の表記

本書は、以下の製品を対象に記述されています。

- AT-x510-28GTX
- AT-x510-52GTX
- AT-x510-28GPX
- AT-x510-52GPX

「本製品」と表記している場合は、特に記載がないかぎり、AT-x510-28GTXとAT-x510-52GTX、AT-x510-28GPX、AT-x510-52GPXの4製品を意味します。

製品の図や画面表示例は、特に記載がないかぎり、AT-x510-28GTXを使用しています。

画面表示

本書で使用されている画面表示例は、開発中のバージョンを用いているため、実際の製品とは異なる場合があります。また、旧バージョンから機能的な変更がない場合は、画面表示などに旧バージョンのものをを使用する場合があります。あらかじめご了承ください。

目次

安全のために	4
はじめに	6
最新のファームウェアについて	6
マニュアルの構成	7
表記について	8
目次	9
1 お使いになる前に	11
1.1 梱包内容	12
1.2 概要	13
特長	13
オプション (別売)	13
1.3 各部の名称と動き	15
前面	15
背面	20
側面	22
1.4 LED表示	24
ポートLED	24
SFP+スロットLED	25
ステータスLED	26
2 設置と接続	27
2.1 設置方法を確認する	28
設置するときの注意	29
2.2 19インチラックに取り付ける	30
2.3 オプションを利用して設置する	32
2.4 SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける	33
SFP/SFP+/スタックモジュールの取り付けかた	34
2.5 ネットワーク機器を接続する	37
ケーブル	37
接続のしかた	39
2.6 PoE対応の受電機器を接続する	40
本製品のPoE給電仕様	40

目 次

ケーブル.....	42
接続のしかた.....	42
2.7 スタック接続をする.....	43
接続のしかた.....	43
2.8 コンソールを接続する.....	45
コンソール.....	45
ケーブル.....	45
接続のしかた.....	46
2.9 電源ケーブルを接続する.....	47
ケーブル.....	47
接続のしかた.....	47
システム電源を二重化する場合.....	49
2.10 設定の準備.....	50
コンソールターミナルを設定する.....	50
本製品を起動する.....	51
2.11 操作の流れ.....	52
3 付 録.....	57
3.1 困ったときに.....	58
自己診断テストの結果を確認する.....	58
LED表示を確認する.....	59
ログを確認する.....	59
トラブル例.....	61
3.2 ハイパーターミナルの設定.....	65
3.3 Telnetクライアントの設定.....	67
3.4 仕 様.....	68
コネクタ・ケーブル仕様.....	68
本製品の仕様.....	71
3.5 保証とユーザーサポート.....	73
保証、修理について.....	73
ユーザーサポート.....	73
サポートに必要な情報.....	73

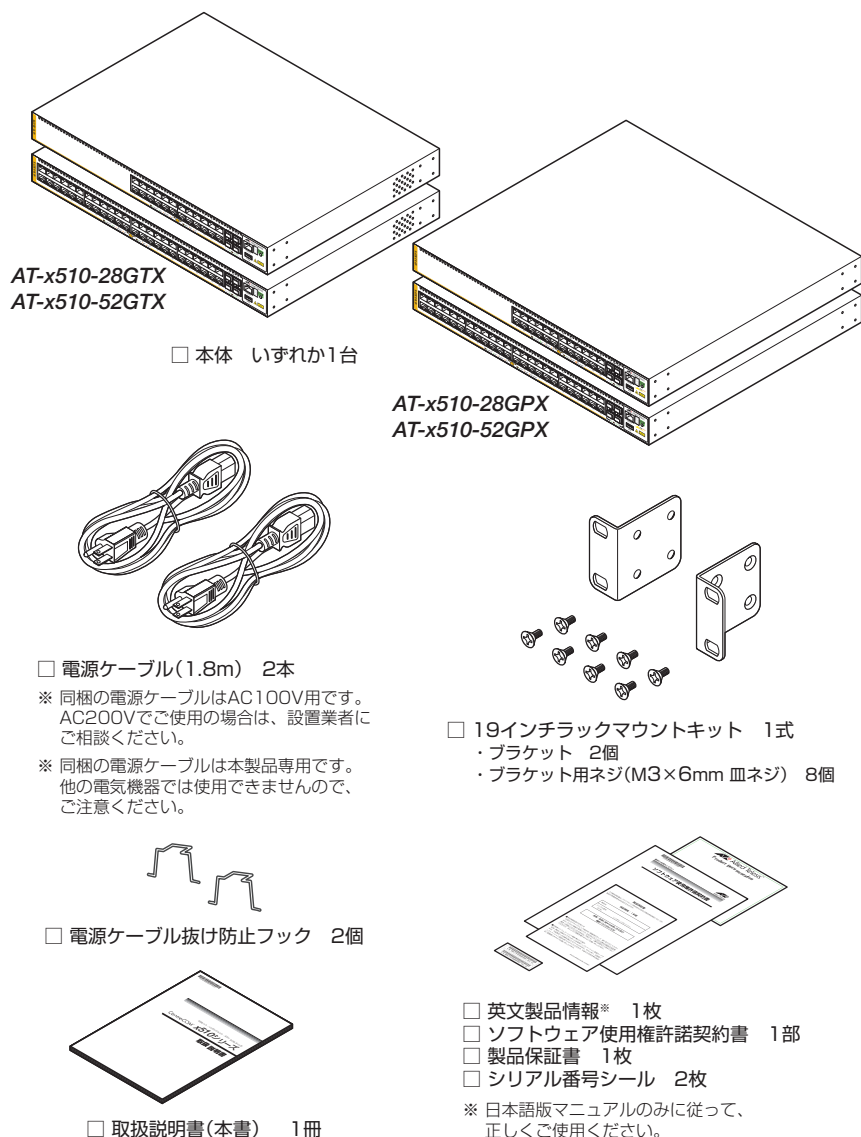
1

お使いになる前に

この章では、本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働きについて説明します。

1.1 梱包内容

最初に梱包箱の中身を確認してください。



本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品がおさめられていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1.2 概 要

本製品のハードウェア的な特長とオプション（別売）製品を紹介します。オプション製品のリリース時期については最新のリリースノートやデータシートをご覧ください。

特長

- (AT-x510-28GTX) 10/100/1000BASE-T ポートを 24 ポート、SFP+ スロットを 4 スロット 装備
- (AT-x510-52GTX) 10/100/1000BASE-T ポートを 48 ポート、SFP+ スロットを 4 スロット 装備
- (AT-x510-28GPX) 10/100/1000BASE-T PoE ポートを 24 ポート、SFP+ スロットを 4 スロット 装備
- (AT-x510-52GPX) 10/100/1000BASE-T PoE ポートを 48 ポート、SFP+ スロットを 4 スロット 装備
- 2 個の SFP+ スロットを使用して、バーチャルシャーシスタック (VCS) 機能によるスタック接続が可能
- USB ポート経由でファームウェアや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールが可能
- 本体前面の切替スイッチで、ポートの LED を消灯させる設定が可能 (エコ LED 機能)
- 同梱のフックで電源ケーブルの抜けを防止
- 同梱の 19 インチラックマウントキットで EIA 標準の 19 インチラックに取り付け可能

オプション（別売）

- SFP モジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-MG8T 1000BASE-T (RJ-45) *
 - AT-SPSX 1000BASE-SX (2 連 LC)
 - AT-SPSX2 1000M MMF (2km) (2 連 LC)
 - AT-SPLX10 1000BASE-LX (2 連 LC)
 - AT-SPLX40 1000M SMF (40km) (2 連 LC)
 - AT-SPZX80 1000M SMF (80km) (2 連 LC)
 - AT-SPBD10-13/AT-SPBD10-14 1000BASE-BX10 (LC)
 - AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B 1000M SMF (20km) (LC)
 - AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B 1000M SMF (80km) (LC)
 - AT-SPBDM-A/AT-SPBDM-B 1000M MMF (550m) (LC)

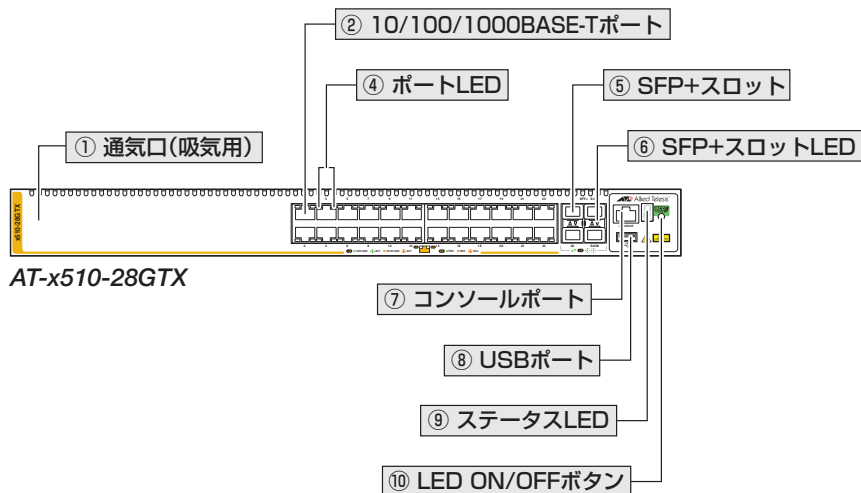
※ AT-MG8T による 10/100Mbps 通信は未サポートです。サポートされた場合は、リリースノートやデータシートでお知らせすることがあります。詳細については最新のリリースノートやデータシートでご確認ください。

1.2 概要

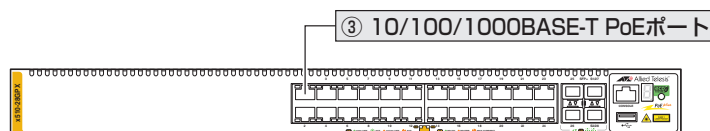
- SFP+モジュールによりポートの拡張が可能
 - AT-SP10SR 10GBASE-SR
 - AT-SP10LR 10GBASE-LR
 - AT-SP10TW1 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
 - AT-SP10TW3 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
 - AT-SP10TW7 SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)
- 専用のスタックモジュールによりスタック接続が可能
 - AT-StackXS/1.0 カップースタックモジュール (1m)
 - AT-StackOP/0.3 ファイバースタックモジュール (300m)
 - AT-StackOP/9.0 ファイバースタックモジュール (9km)
- 壁設置ブラケットで壁面への取り付けが可能
AT-BRKT-J22
- 専用のコンソールケーブルキットでコンソールのシリアルポート、USBポートと接続
CentreCOM VT-Kit2 plus
- 専用のRJ-45/D-Sub 9ピン (メス) 変換RS-232ケーブルでコンソールと接続
CentreCOM VT-Kit2
 - ※ コンソール接続には「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」が必要です。
- L字型コネクター電源ケーブルにより、奥行きを取らずに設置可能
 - AT-PWRCBL-J01L
 - AT-PWRCBL-J01R (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ)

1.3 各部の名称と働き

前面



AT-x510-52GTX



AT-x510-28GPX



AT-x510-52GPX

1.3 各部の名称と働き

① 通気口(吸気用)

本製品内部に空気を取り入れるための穴です。

本製品は前面/側面から空気を取り入れ、背面から排出します。背面側に搭載されたファンによって、本製品を強制空冷します。



注意

通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

② 10/100/1000BASE-T ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルは10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



37ページ「ネットワーク機器を接続する」

③ 10/100/1000BASE-T PoE ポート

UTPケーブルを接続するコネクタ (RJ-45) です。

IEEE 802.3at 対応のPoE 受電機器を接続する場合は、エンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。

PoE 非対応の機器接続時は、10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスド・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用します。

接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。



40ページ「PoE 対応の受電機器を接続する」

④ ポートLED

10/100/1000BASE-T ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLED ランプです。

AT-x510-28GTX / AT-x510-52GTX

○ L/A (左側)

通信速度 (10・100/1000Mbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

○ D/C (右側)

デュプレックス (Half/Full Duplex)、コリジョンの発生を表します。

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPX

○ L/A (左側)

通信速度 (10・100/1000Mbps)、接続先の機器とのリンク、パケットの送受信を表します。

○ POE (右側)

PoE 電源の供給状態を表示します。

ポート LED は、LED ON/OFF ボタンによって点灯させないように設定することもできます (エコ LED 機能)。

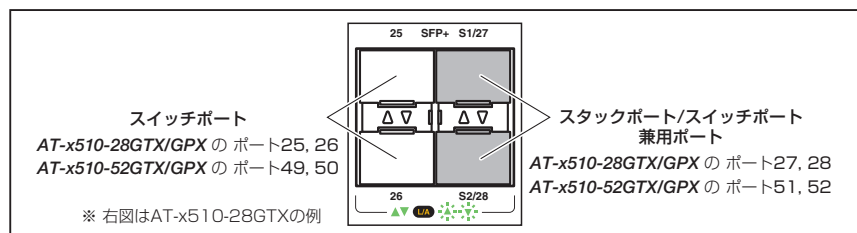
 24 ページ「LED 表示」

⑤ SFP+ スロット

オプション (別売) の SFP/SFP+ モジュール (以下、SFP/SFP+ と省略します) を装着するスロットです。ご購入時には、ダストカバーが取り付けられています。



ダストカバーは、SFP/SFP+ 装着するとき以外、はずさないようにしてください。



AT-x510-28GTX/GPX のポート 27, 28、AT-x510-52GTX/GPX のポート 51, 52 は、スタックポートとして使うか、拡張用のスイッチポートとして使うかを選ぶことができます。

CLI 上で、VCS 機能を有効に設定するとスタックポートに、無効に設定するとスイッチポートになります。VCS 機能は初期設定で有効化されています。

なお、VCS 機能の有効・無効を設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

VCS 機能有効時、末尾の 2 ポートはスタックポート 1 (S1)、2 (S2) となり、複数のスイッチをリング上に接続するためのポートとして動作します。

スタックポートとして使用する場合は、オプション (別売) の専用スタックモジュールを装着してください。専用スタックモジュール以外ではスタックポートとして動作しません。

AT-StackXS/1.0

銅スタックモジュール (1m)

AT-StackOP/0.3

ファイバースタックモジュール (300m)

AT-StackOP/9.0

ファイバースタックモジュール (9km)

1.3 各部の名称と働き

スタックポートの帯域は双方向20Gbpsです。

1つのVCSグループ内で、銅のリンクとファイバーのリンク、または、300mのファイバーリンクと9kmのファイバーリンクを混在させることができます。

また、1つのVCSグループ内で、CentreCOM x510シリーズの各機種を混在させることもできます。AT-x510-28GTX / AT-x510-52GTXと、AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXの組み合わせも可能です。



VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに別冊で掲載されています。ご使用の際は、必

ず専用のマニュアル「VCS設定/運用マニュアル」をお読みになり内容をご確認ください。



33ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」



37ページ「ネットワーク機器を接続する」



43ページ「スタック接続をする」

⑥ SFP+スロットLED

SFP/SFP+ポートと接続先の機器の通信状況を表示するLEDランプです。

AT-x510-28GTX/GPXのポート27、28、AT-x510-52GTX/GPXのポート51、52をスタックポートとして使用している場合は、スタックポートの接続状況を表示します。

○ L/A (Link/Activity)

接続先の機器とのリンク(1000M/10Gbps)、パケットの送受信(10Gbpsのみ)を表します。

SFP+スロットLEDは、LED ON/OFF ボタンによって点灯させないように設定することもできます(エコLED機能)。



24ページ「LED表示」

⑦ コンソールポート

コンソールを接続するコネクタ (RJ-45) です。

ケーブルはオプション(別売)のコンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。



45ページ「コンソールを接続する」

⑧ USBポート

USBメモリーを接続するためのUSB 2.0のポートです。

ファームウェアファイルや設定ファイルの持ち運び、バックアップ、インストールに使用します。



・ご使用の際には、お客様の使用環境で事前に検証を行ったうえで導入してください。

・USBメモリー以外のものを接続しないでください。USB延長ケーブルやUSBハブを介した接続は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

⑨ ステータスLED

本製品全体の状態を表示する7セグメントとドットのLEDランプです。7セグメントLEDの点灯で、下記に示す内容のほか、本製品への電源供給状態が確認できます。

○ 8.(7セグメントとドットの全点灯)

本製品の起動を表します。

○ F

本製品の異常を表します。

○ 0～8*

VCSのスタックメンバーIDを表します。0(ゼロ)はVCS機能が無効であることを意味します。

※ ファームウェアのバージョンにより、スタック可能な最大台数など、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「VCS設定/運用マニュアル」でご確認ください。

○ .(ドットの点灯と点滅)

USBメモリーの使用状況を表します。

○ - (横3セグメントのいずれかの点灯)

LED ON/OFFボタンによってLED OFFに設定されているとき、スタックメンバーの役割(マスターかスレーブ)、またはVCS機能の無効状態を表します。

また、横3セグメントのいずれかの点灯によって、LED OFF設定時でも本製品への電源供給を確認できます。



ヒント

VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに別冊で掲載されています。ご使用の際は、必ず専用のマニュアル「VCS設定/運用マニュアル」をお読みになり内容をご確認ください。



参照 24ページ「LED表示」

⑩ LED ON/OFF ボタン

LEDの点灯・消灯を切り替えるボタンです。

LEDによる機器監視が不要なときに、LEDを消灯させることで、電力消費を抑えて省エネの効果を得ることができます(エコLED)。

ボタンを押すと、ステータスLED(7セグメントLEDの横セグメント)を除くすべてのLEDが消灯します。

VCSによるスタック構成時には、1台のスイッチによるボタンの操作で、VCSグループの全メンバーのLED ON/OFFを制御できます。

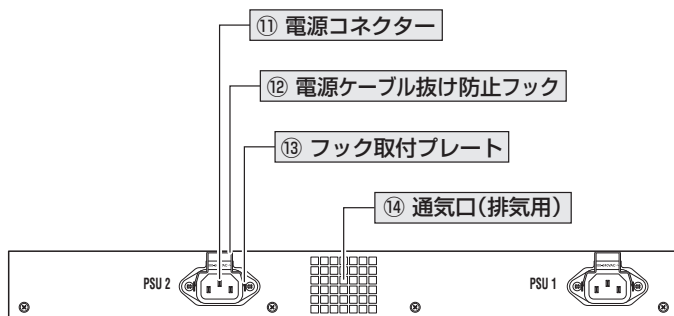
なお、本ボタンによる点灯・消灯の切り替えは、設定ファイルには反映されません。



参照 24ページ「LED表示」

1.3 各部の名称と働き

背面



AT-x510-28GTX / AT-x510-52GTX



AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPX

⑪ 電源コネクタ

AC 電源ケーブルを接続するコネクタです。

PSU 1 (右側) と PSU 2 (左側) の 2 つの電源コネクタがあり、筐体内で電源の冗長化が可能です。

また、AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPX の場合、電源コネクタ 1 個あたりの PoE 最大供給電力は 185W で、2 個使用することにより 370W にまで増幅させることができます。

同梱の電源ケーブルは AC100V 用です。AC200V でご使用の場合は、設置業者にご相談ください。

 参照 47 ページ「電源ケーブルを接続する」

⑫ 電源ケーブル抜け防止フック

電源ケーブルの抜け落ちを防止する金具です。

ご購入時には、フックは取りはずされた状態で同梱されています。

 参照 47 ページ「電源ケーブルを接続する」

⑬ フック取付プレート

電源ケーブル抜け防止フックを取り付けるプレートです。

 参照 47 ページ「電源ケーブルを接続する」

⑭ 通気口 (排気用)

本製品内部の空気を排出するための穴です。

本製品は前面 / 側面から空気を取り入れ、背面から排出します。背面側に搭載されたファンによって、本製品を強制空冷します。

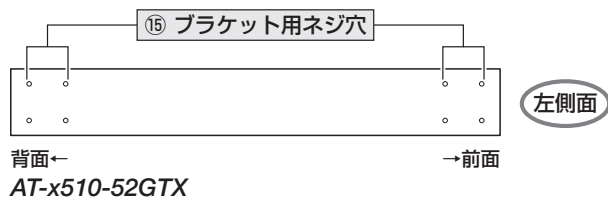
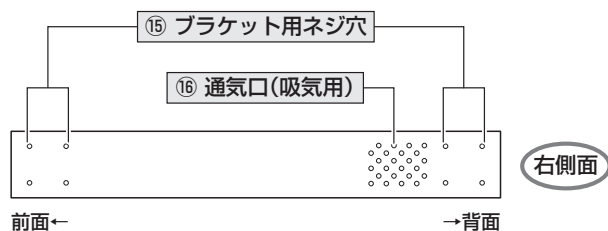
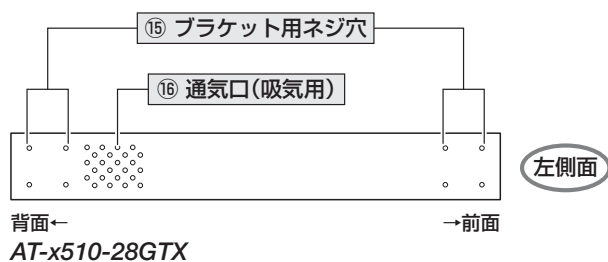
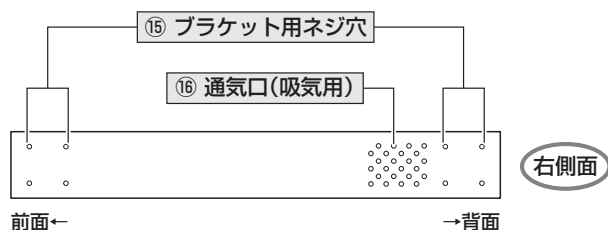


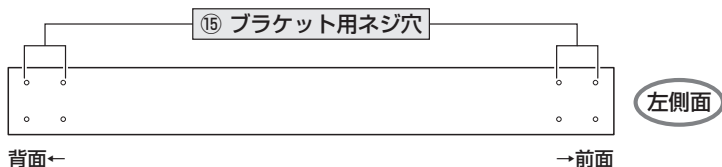
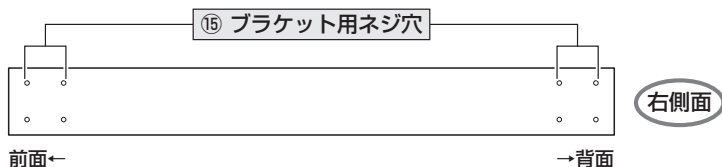
注意

通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

1.3 各部の名称と働き

側面





AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPX

⑮ ブラケット用ネジ穴

19インチラックマウントキットのブラケットを取り付けるためのネジ穴です。
ネジ穴は前面側と背面側の2か所にあり、どちらにでもブラケットが取り付けられます。

 30ページ「19インチラックに取り付ける」

⑯ 通気口 (吸気用)

本製品内部に空気を取り入れるための穴です。

本製品は前面 / 側面から空気を取り入れ、背面から排出します。背面側に搭載されたファンによって、本製品を強制空冷します。

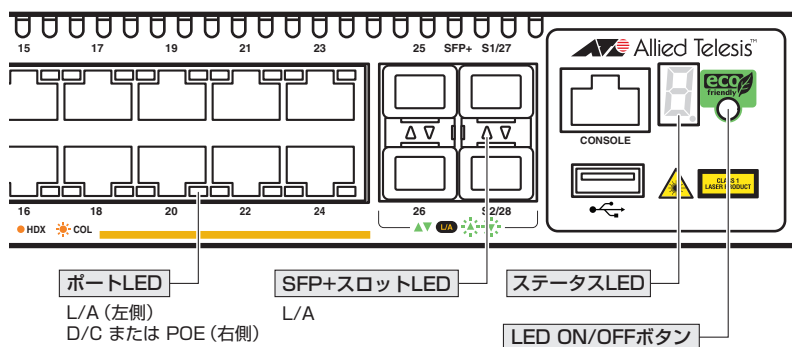


通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

注意

1.4 LED 表示

本体前面には、本製品全体や各ポートの状態を示すLEDが付いています（下図はAT-x510-28GTX）。



ポート LED

AT-x510-28GTX / AT-x510-52GTX

10/100/1000BASE-T ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (左側)	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbps でパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbps でパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。
D/C (右側)	緑	点灯	Full Duplex でリンクが確立しています。
	橙	点灯	Half Duplex でリンクが確立しています。
		点滅	コリジョンが発生しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPX

10/100/1000BASE-T PoE ポートの状態を表します。

LED	色	状態	表示内容
L/A (左側)	緑	点灯	1000Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	1000Mbps でパケットを送受信しています。
	橙	点灯	10/100Mbps でリンクが確立しています。
		点滅	10/100Mbps でパケットを送受信しています。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。
POE (右側)	緑	点灯	受電機器に PoE 電源を供給しています。
	橙	点灯	受電機器 (または受電機器との間) に異常があります。
		点滅	ポートの出力電力が上限値を上回ったため、本ポートへの給電が停止しています。
		点滅	PoE 電源の電力使用量が最大供給電力を上回ったため、本ポートへの給電が停止しています。
	—	消灯	受電機器に PoE 電源が供給されていません。
		消灯	PoE 非対応の機器が接続されています。
		消灯	LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。

SFP+ スロット LED

SFP/SFP+ ポート、またはスタックポートの状態を表します。

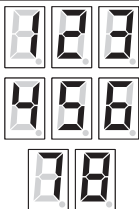
LED	色	状態	表示内容
L/A	緑	点灯	SFP/SFP+/スタックモジュールを介して、1000M/10Gbps でリンクが確立しています。
		点滅	SFP/SFP+/スタックモジュールを介して、10Gbps でパケットを送受信しています。 1000Mbps でのパケット送受信時は本 LED は点滅しません。
	—	消灯	リンクが確立していません。 LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。

1.4 LED 表示

ステータス LED

7セグメントとドットのLEDで本製品全体の状態を表します。

7セグメントLEDの点灯で、下記に示す内容のほか、本製品への電源供給状態が確認できます。

LED	色	状態	表示内容
7セグメントを使用した表示			
	緑	点灯	VCS 機能が無効で、単体で動作しています。
	緑	点灯	VCS 機能が有効で、スタックメンバーとして動作しています。 数字はスタックメンバー ID を表します。 ^{※1}
	緑	点灯 ^{※2}	ファンまたは内部温度に異常があります。
	緑	点灯	LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています (LED OFF 設定時でも、電源供給確認のため本 LED だけは点灯します)。 横3セグメントで、以下の状態を表します。 上：スタックメンバーのマスターとして動作しています。 中：VCS 機能が無効で、単体で動作しています。 下：スタックメンバーのスレーブとして動作しています。
ドットを使用した表示			
	緑	点滅	USB メモリー接続時、USB メモリーに対してファイルの書き込み / 読み出しが行われています。
		点灯	USB メモリーが接続されています。
		消灯	LED ON/OFF ボタンによって LED OFF に設定されています。 USB メモリーが接続されていません。
7セグメントとドットを使用した表示			
	緑	点灯	本製品が起動しています。
	—	消灯	本製品に電源が供給されていません。

※1 ファームウェアのバージョンにより、スタック可能な最大台数など、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「VCS 設定 / 運用マニュアル」でご確認ください。

※2 「F」の点灯は、VCS 機能の無効を示す「0」、スタックメンバー ID を示す「1～8」のいずれかと、約 1 秒間ずつ交互に表示されます。



ヒント

VCS に関する詳細な情報は、弊社ホームページに別冊で掲載されています。ご使用の際は、必ず専用のマニュアル「VCS 設定 / 運用マニュアル」をお読みになり内容をご確認ください。

2

設置と接続

この章では、本製品の設置方法と機器の接続について説明しています。

2.1 設置方法を確認する

本製品は次の方法による設置ができます。

○ ゴム足による水平方向の設置

本製品を卓上や棚などの水平な場所に設置する場合は、底面のゴム足を使用して設置してください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷付きを防止したりします。

○ ラックマウントキットによる 19 インチラックへの設置

○ 壁設置ブラケットによる壁面への設置



弊社指定品以外の設置金具を使用した設置を行わないでください。また、本書に記載されていない方法による設置を行わないでください。不適切な方法による設置は、火災や故障の原因となります。



水平方向以外に設置した場合、「取り付け可能な方向」であっても、水平方向に設置した場合に比べほこりがたまりやすくなる可能性があります。定期的に製品の状態を確認し、異常がある場合にはただちに使用をやめ、弊社サポートセンターにご連絡ください。



電源部が下向きになる方向で設置する場合には、必ず、同梱の電源ケーブル抜け防止フックを使用し、電源ケーブルを固定してください。



製品に関する最新情報は弊社ホームページにて公開しておりますので、設置の際は、付属のマニュアルとあわせてご確認のうえ、適切に設置を行ってください。

設置するときの注意

本製品の設置や保守をはじめる前に、必ず4ページ「安全のために」をよくお読みください。
設置については、次の点にご注意ください。

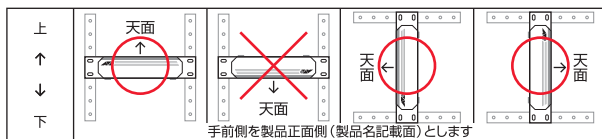
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置は避けてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 十分な換気ができるように、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- 傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 底面を上にして設置しないでください。
- 本製品の上に物を置かないでください。
- 直射日光の当たる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると静電気の放電により故障の原因になります。

2.2 19 インチラックに取り付ける

本製品は同梱の19インチラックマウントキットを使用して、EIA 規格の19インチラックに取り付けることができます。

ブラケットは本体前面側または背面側のどちらにでも取り付けられます。

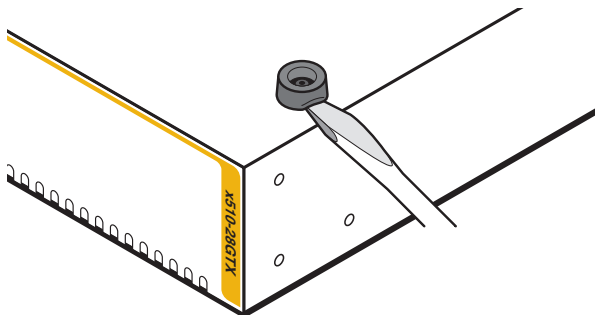
必ず下図の○の方向に設置してください。



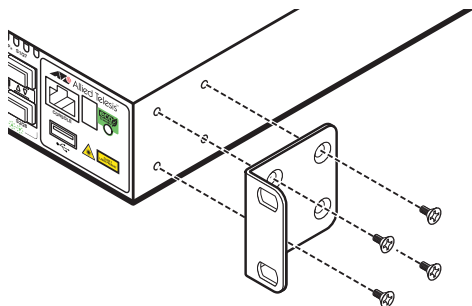
- ・必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。
- ・ブラケットおよびブラケット用ネジは必ず同梱のものを使用してください。同梱以外のネジなどを使用した場合、火災や感電、故障の原因となることがあります。
- ・本製品を19インチラックへ取り付ける際は適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。
- ・本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同電位の間所から取るようにしてください。

1 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。

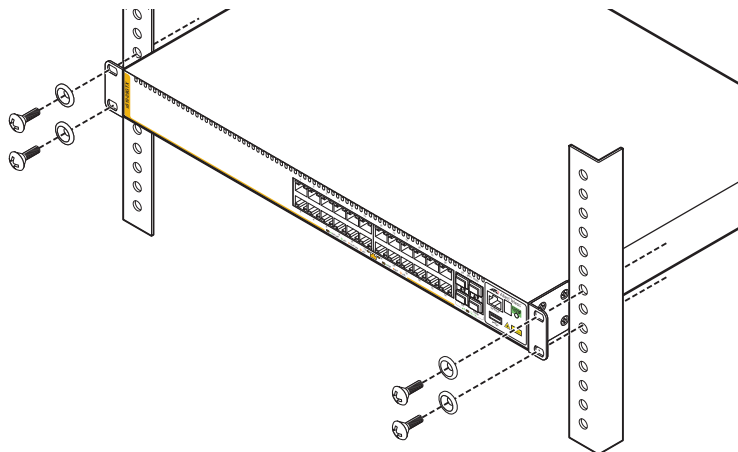
2 本体底面の四隅にリベットで止められているゴム足を、ドライバーなどを使用してはずします。



- 3** 同梱のブラケット用ネジを使用して、本体両側面にブラケットを取り付けます。



- 4** ラックに付属のネジを使用して、19インチラックに本製品を取り付けます。

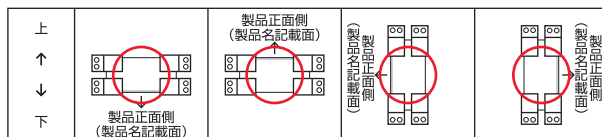


2.3 オプションを利用して設置する

本製品は以下のオプション（別売）の壁設置ブラケット「AT-BRKT-J22」を使用して壁面に取り付けることができます。

取り付け方法については、「AT-BRKT-J22」に付属の取扱説明書を参照してください。

必ず下図の○の方向に設置してください。



- 必ず○の方向に設置してください。それ以外の方向に設置すると、正常な放熱ができなくなり、火災や故障の原因となります。

- 壁設置ブラケットを使用して壁面に取り付ける際は、適切なネジで確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。



- 壁設置ブラケットに取り付け用ネジは同梱されていません。別途ご用意ください。

- 壁設置ブラケットを使用する際は、本製品からゴム足をはずした状態で設置してください。

2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

SFP/SFP+、スタックモジュールの取り付け方を説明します。

本製品にはオプション（別売）で以下のモジュールが用意されています。

SFPモジュール	
AT-MG8T	1000BASE-T (RJ-45)
AT-SPSX	1000BASE-SX (2連LC)
AT-SPSX2	1000M MMF (2km) (2連LC)
AT-SPLX10	1000BASE-LX (2連LC)
AT-SPLX40	1000M SMF (40km) (2連LC)
AT-SPZX80	1000M SMF (80km) (2連LC)
AT-SPBD10-13/AT-SPBD10-14	1000BASE-BX10 (LC)
AT-SPBD20-A/AT-SPBD20-B	1000M SMF (20km) (LC)
AT-SPBD80-A/AT-SPBD80-B	1000M SMF (80km) (LC)
AT-SPBDM-A/AT-SPBDM-B	1000M MMF (550m) (LC)
SFP+モジュール	
AT-SP10SR	10GBASE-SR
AT-SP10LR	10GBASE-LR
AT-SP10TW1	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (1m)
AT-SP10TW3	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (3m)
AT-SP10TW7	SFP+ダイレクトアタッチケーブル (7m)
スタックモジュール	
AT-StackXS/1.0	カッパースタックモジュール (1m)
AT-StackOP/0.3	ファイバースタックモジュール (300m)
AT-StackOP/9.0	ファイバースタックモジュール (9km)



- ・ 弊社販売品以外のSFP/SFP+では動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ・ AT-x510-28GTX/GPXのポート27, 28、AT-x510-52GTX/GPXのポート51, 52を、VCS用のスタックポートとして使用する場合は、必ず専用のスタックモジュールを装着してください。専用スタックモジュール以外ではスタックポートとして動作しません。
- ・ AT-MG8Tによる10/100Mbps通信は未サポートです。サポートされた場合は、リリースノートやデータシートでお知らせすることがあります。詳細については最新のリリースノートやデータシートでご確認ください。



ヒント

- ・ SFP/SFP+、スタックモジュールの仕様については、SFP/SFP+/スタックモジュールに付属のインストレーションガイドを参照してください。
- ・ VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに別冊で掲載されています。ご使用の際は、必ず専用のマニュアル「VCS設定/運用マニュアル」をお読みになり内容をご確認ください。また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「VCS設定/運用マニュアル」でご確認ください。

2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

SFP/SFP+/ スタックモジュールの取り付けかた



警告

- ・ 静電気の放電を避けるため、各モジュール取り付け・取りはずしの際には、ESD リストストラップをするなど静電防止対策を行ってください。
- ・ SFP/SFP+/ スタックモジュールはクラス 1 レーザー製品です。本製品装着時に光ファイバーケーブルやコネクタをのぞきこまないでください。目に傷害を被る場合があります。
- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブル、銅スタックモジュールを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をダイレクトアタッチケーブル/銅スタックモジュールで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



注意

- ・ SFP+スロット、およびコネクタのダストカバーは、SFP/SFP+/ スタックモジュールを使用するとき以外、はずさないようにしてください。
- ・ SFP+ダイレクトアタッチケーブルは、弊社製品同士の接続のみをサポートしています。他社製品と接続する場合は、AT-SP10SRまたはAT-SP10LRを用いて、事前に十分な検証を行ったうえで接続するようにしてください。



ヒント

- ・ SFP/SFP+/ スタックモジュールはホットスワップ対応のため、取り付け・取りはずしの際に、本体の電源を切る必要はありません。異なる種類(型番)のモジュールへのホットスワップも可能です。
- ・ SFP/SFP+/ スタックモジュールには、スロットへの固定・取りはずし用にハンドルが付いているタイプとボタンが付いているタイプがあります。形状は異なりますが、機能的には同じものです。
- ・ AT-x510-28GTX/GPXのポート27、28、AT-x510-52GTX/GPXのポート51、52は、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。CLI上で、VCS機能を有効に設定するとスタックポートに、無効に設定するとスイッチポートになります。VCS機能は初期設定で有効化されています。スイッチポートとして使用する場合は、VCS機能を無効に変更してください。
なお、VCS 機能の有効・無効を設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

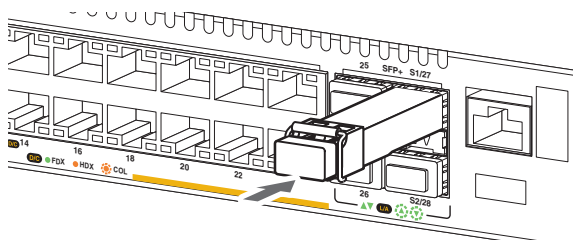
取り付け

○SFP/SFP+/ファイバースタックモジュール

1 SFP+スロットに付いているダストカバーをはずします。

2 SFP/SFP+/ファイバースタックモジュールの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。ハンドルが付いているタイプはハンドルを上げた状態で差し込んでください。

奇数番号のスロット（上段）は各モジュールを下図で示す向きに装着してください。偶数番号のスロット（下段）では装着する向きが上下逆になります（次の図はAT-x510-28GTXのポートS1/27に差し込む例）。



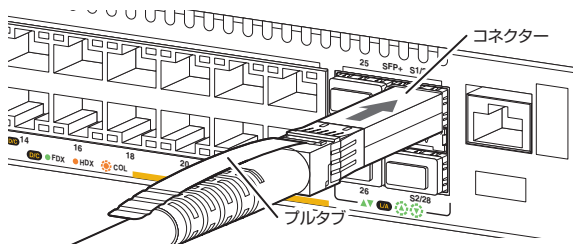
3 各モジュールに付いているダストカバーをはずします。

○SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュール

1 SFP+スロットに付いているダストカバーをはずします。

2 ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュールのコネクタの両脇を持ってスロットに差し込み、カチッとハマるまで押し込みます。このとき、SFP+スロットにブルタブが巻き込まれないように注意してください。

奇数番号のスロット（上段）は各モジュールを下図で示す向きに装着してください。偶数番号のスロット（下段）では装着する向きが上下逆になります（次の図はAT-x510-28GTXのポートS1/27に差し込む例）。



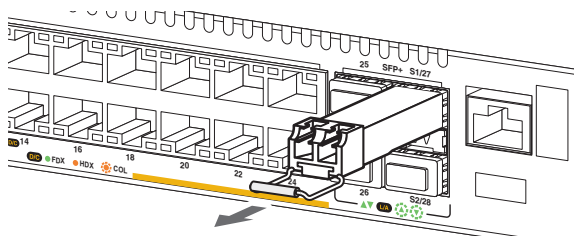
2.4 SFP/SFP+/ スタックモジュールを取り付ける

- 3 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクタを、もう1台の機器のSFP+スロットに接続します。

取りはずし

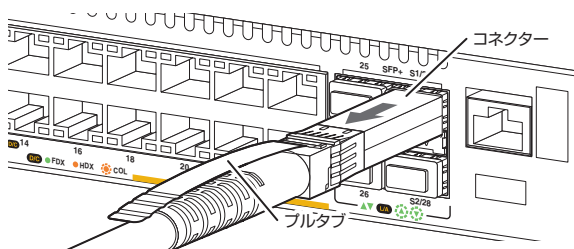
○SFP/SFP+/ファイバースタックモジュール

- 1 光ファイバーケーブルをはずします。
- 2 ボタンが付いているタイプはボタンを押し、ハンドルが付いているタイプはハンドルを下げたあと、手前に引いてスロットへの固定を解除します。
次にSFP/SFP+/ファイバースタックモジュールの両脇を持ってスロットから引き抜きます。



○SFP+ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュール

- 1 ダイレクトアタッチケーブル/カッパースタックモジュールのコネクタ上部のプルタブを持って、SFP+スロットから手前にまっすぐ引き抜きます。
- 2 同様の手順で、ケーブルの反対側のコネクタをSFP+スロットから引き抜きます。



2.5 ネットワーク機器を接続する

本製品にコンピューターや他のネットワーク機器を接続します。

ケーブル

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10/100/1000BASE-T ・AT-x510-28GTX ・AT-x510-52GTX ・AT-x510-28GPX ^{*1} ・AT-x510-52GPX ^{*1} ・AT-MG8T ^{*2}	10BASE-T : UTPカテゴリ 3以上 100BASE-TX : UTPカテゴリ 5以上 1000BASE-T : UTPエンハンスド・カテゴリ 5以上	100m
1000BASE-SX ・AT-SPSX	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	550m (伝送帯域500MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	275m (伝送帯域200MHz・km時)
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPSX2	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	1km
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	2km
1000BASE-LX ・AT-SPLX10	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
	GI 50/125 マルチモードファイバー ^{*3} (ITU-T G.651 準拠)	550m (伝送帯域500MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー ^{*3}	
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPLX40	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	40km
長距離用 1000Mbps 光 ・AT-SPZX80	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km ^{*4}
1000BASE-BX10 ・AT-SPBD10-13/14	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
1 心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD20-A/B	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	20km
1 心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBD80-A/B	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	80km
1 心双方向 1000Mbps 光 ・AT-SPBDM-A/B	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	550m
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	

2.5 ネットワーク機器を接続する

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
10GBASE-SR ・AT-SP10SR	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	66m (伝送帯域 400MHz・km時)
		82m (伝送帯域 500MHz・km時)
		300m (伝送帯域 2000MHz・km時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	26m (伝送帯域 160MHz・km時) 33m (伝送帯域 200MHz・km時)
10GBASE-LR ・AT-SP10LR	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	10km
SFP+ダイレクトアタッチケーブル		
・AT-SP10TW1		1m
・AT-SP10TW3		3m
・AT-SP10TW7		7m

- ※ 1 IEEE 802.3at 対応の PoE 受電機器を接続する場合は、エンハンスド・カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用してください。
- ※ 2 AT-MG8T による 10/100Mbps 通信は未サポートです。サポートされた場合は、リリースノートやデータシートでお知らせすることがあります。詳細については最新のリリースノートやデータシートでご確認ください。
- ※ 3 マルチモードファイバーを使用する際には、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。
- ※ 4 使用ケーブルの損失が 0.25dB/km 以下、分散が 20ps/nm・km の場合です。

接続のしかた



SFP+ダイレクトアタッチケーブルを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をSFP+ダイレクトアタッチケーブルで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



SFP+ダイレクトアタッチケーブルはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、33ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」をご覧ください。



AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXを、PoE受電機器に接続する手順については、40ページ「PoE対応の受電機器を接続する」をご覧ください。

10/100/1000BASE-Tポート

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類（MDI/MDI-X）にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

- 1 本製品の10/100/1000BASE-TポートにUTPケーブルのRJ-45コネクタを差し込みます。
- 2 UTPケーブルのもう一端のRJ-45コネクタを接続先機器の10/100/1000BASE-Tポートに差し込みます。

光ポート

光ファイバーケーブルはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。

AT-SPBDシリーズ以外のSFP/SFP+で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

- 1 本製品のSFP/SFP+ポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器の光ポートに差し込みます。

2.6 PoE 対応の受電機器を接続する

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXにPoE対応の受電機器を接続します。

本製品はクラス4受電機器への給電が可能なIEEE 802.3atに対応しています。給電方式はケーブルの信号線(1,2,3,6)を使用して給電を行うオルタナティブAを採用しています。

本製品のPoE 給電仕様

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのPoE給電機能は、デフォルトでは、すべてのPoEポートで有効になっています。接続された受電機器の検出、電力クラスの識別を自動的にを行い、必要に応じて給電を開始します。

接続された機器が受電機器ではなく通常のイーサネット機器だった場合は、給電を行わず通常の10/100/1000BASE-Tポートとして動作します。

1ポートあたりの最大供給電力は30W、システム全体の最大供給電力は、AC電源×1個使用時で185W、AC電源×2個使用時で370Wです。

IEEE 802.3atで規定されている電力クラス分けと、本製品が同時に給電可能なポートの最大数については、下表をご覧ください。

クラス	受電機器の電力 (最大)	給電機器の電力	同時に給電可能なポートの最大数			
			AT-x510-28GPX		AT-x510-52GPX	
			AC電源 ×1個(185W)	AC電源 ×2個(370W)	AC電源 ×1個(185W)	AC電源 ×2個(370W)
0	13.0 W	15.4 W	12*	24	12*	24*
1	3.84 W	4.0 W	24	24	46*	48
2	6.49 W	7.0 W	24	24	26*	48
3	13.0 W	15.4 W	12*	24	12*	24*
4	25.5 W	30.0W	6*	12*	6*	12*

※ 受電機器の電力使用量やポートの出力電力の設定によっては、同時に給電可能なポートの最大数が増加する場合があります。



電力クラスは、CLIのshow power-inlineコマンドやshow power-inline interfaceコマンドで確認できます(Class欄やPowered device class欄)。

ポートへの電力の割り当て

IEEE 802.3atで規定されている電力クラスの情報にもとづいて給電制御を行います。

たとえば、接続された受電機器がクラス1だった場合、受電機器が実際に使用する電力量に関係なく、4W分の電力が接続ポートに割り当てられます(最大4Wまでの出力に対応できるように、最大供給電力のうち4W分をあらかじめ確保するという意味です)。

電力の割り当ては、電力クラスにもとづいて自動的にを行う方法以外に、CLIコマンドを使用してポートごとに手動で設定することも可能です。指定したポートの電力を予約しておくようなもので、受電機器が実際に接続された時点で、接続ポートに設定値分の電力が割り当てられます。

4000～30000mWの範囲で任意の上限を設けることができるので、たとえば、実際の電力使用量が8Wのクラス3受電機器が接続された場合、クラス分けによる電力の割り当てでは、接続ポートには自動的に15.4Wの電力が割り当てられますが、手動の場合は10Wにするなど、より細やかな電力の割り振りが可能です。

ポートに割り当てる電力を予約する(ポートの出力電力に上限値を設ける)には、power-inline max コマンド(インターフェースモード)を使います。

ポートに割り当てられる電力は、show power-inline コマンド(非特権EXECモード)の「Max (mW)」で確認できます。クラス分けによる割り当ての場合は「[C]」、手動設定による割り当ての場合は、「[U]」が表示されます。受電機器の実際の電力使用量は「Power」に表示されます。

受電機器がLLDP-MEDに対応している場合、LLDP-MEDを利用した電力の割り当ても可能です。この場合、「Max (mW)」には「[L]」が表示されます。

給電の優先順位

power-inline priority コマンド(インターフェースモード)で、ポートごとに給電優先度をlow(低)、high(高)、critical(最高)の3段階で設定できます。

PoE電源の電力使用量(総量)が最大供給電力を上回った場合は、給電中のポートのうち、もっとも優先順位の低いポートへの給電を停止します。

デフォルトでは、すべてのポートで給電優先度が「low」に設定されています。給電優先度の同じポート間では、ポート番号の小さいほうが優先順位が高くなります(ポート1がもっとも優先順位が高い)。

2.6 PoE 対応の受電機器を接続する

ポートからの出力電力の上限

前述のとおり、power-inline max コマンド (インターフェースモード) で、ポートごとに最大出力電力を任意に設定することができます。なんらかの理由でポートからの出力電力が上限値を超えた場合は、給電優先順位に関係なく該当ポートへの給電が停止されます。

デフォルトでは、すべてのポートで上限値が未設定です。未設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力が上限となります。

ポートからの出力電力が、クラス1受電機器の場合4W、クラス2受電機器の場合7W、クラス3受電機器の場合15.4W、クラス4受電機器の場合30Wを超えると、該当ポートへの給電が停止されます。

power-inline max コマンド設定時は、接続された受電機器の電力クラスにおける最大出力電力よりも小さい値の場合、設定された上限値を超えると給電を停止します。

ケーブル

IEEE 802.3at 対応の PoE 受電機器を接続する場合は、エンハンスト・カテゴリー 5 以上の UTP ケーブルを使用します。

MDI/MDI-X 自動認識機能により、接続先のポートの種類 (MDI/MDI-X) にかかわらず、ストレート / クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品の MDI/MDI-X 自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

接続のしかた



- ・ 給電中のポートからケーブルを抜いた直後は電圧がかかっているため、ケーブルを抜き差しするなどして機器を接続しなおす場合は、2、3秒間を空けてください。再接続の間隔が極端に短いと本製品や接続機器の故障の原因となる恐れがあります。
- ・ 本製品を給電機器 (PSE) とカスケード接続する場合は、本製品のカスケードポートの PoE 給電機能を無効に設定してください。カスケードポートを指定して、power-inline enable コマンド (インターフェースモード) を no 形式で実行します。

- 1 本製品の 10/100/1000BASE-T PoE ポートに UTP ケーブルの RJ-45 コネクタを差し込みます。
- 2 UTP ケーブルのもう一端の RJ-45 コネクタを PoE 受電機器の 10/100/1000BASE-T PoE ポートに差し込みます。

2.7 スタック接続をする

オプション（別売）のスタックモジュールを使用して、スタック接続をする方法について説明します。

ここでは、VCSの物理構成における、具体的な接続手順と注意事項について説明します。VCSの初期設定から運用までの流れについては、「VCS 設定 / 運用マニュアル」をご覧ください。



ヒント

VCSに関する詳細な情報は、弊社ホームページに別冊で掲載されています。ご使用の際は、必ず専用のマニュアル「VCS 設定 / 運用マニュアル」をお読みになり内容をご確認ください。

また、ファームウェアのバージョンにより、サポート対象となる機能の範囲が異なる場合がありますので、詳細は「VCS 設定 / 運用マニュアル」でご確認ください。

使用ケーブルと最大伝送距離は以下のとおりです。

ポート	使用ケーブル	最大伝送距離
カッパースタックモジュール <i>AT-StackXS/1.0</i>		1m
ファイバースタックモジュール <i>AT-StackOP/0.3</i>	GI 50/125 マルチモードファイバー (ITU-T G.651 準拠)	66m (伝送帯域 400MHz・km 時)
		82m (伝送帯域 500MHz・km 時)
		300m (伝送帯域 2000MHz・km 時)
	GI 62.5/125 マルチモードファイバー	26m (伝送帯域 160MHz・km 時)
		33m (伝送帯域 200MHz・km 時)
ファイバースタックモジュール <i>AT-StackOP/9.0</i>	シングルモードファイバー (ITU-T G.652 準拠)	9km

接続のしかた



警告

カッパースタックモジュールを介して接続される機器のアースは、必ず同電位の場所に接続するようにしてください。アースの電位が異なる機器同士をカッパースタックモジュールで接続すると、ショートや故障の原因となる恐れがあります。



ヒント

・ AT-x510-28GTX/GPXのポート27, 28、AT-x510-52GTX/GPXのポート51, 52は、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。CLI上で、VCS機能を有効に設定するとスタックポートに、無効に設定するとスイッチポートになります。

VCS機能は初期設定で有効化されています。スイッチポートとして使用する場合は、VCS機能を無効に設定してください。

なお、VCS機能の有効・無効を設定変更するには、システムの再起動が必要になります。

・ 1つのVCSグループ内で、CentreCOM x510シリーズの各機種を混在させることができます。AT-x510-28GTX / AT-x510-52GTXと、AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXの組み合わせも可能です。

2.7 スタック接続をする

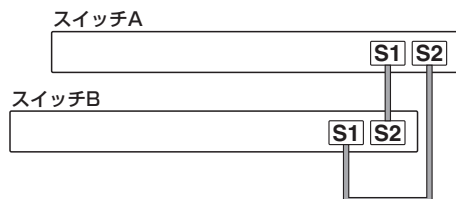
- ・ 1つのVCSグループ内で、銅のリンクとファイバーのリンク、または、300mのファイバーリンクと9kmのファイバーリンクを混在させることができます。
- ・ スタックメンバーは、スタック接続とは別に、特殊な設定を施したスイッチポートとイーサネットケーブル（光ファイバーかUTPケーブル）を使って状態確認用の予備リンクを構成します。これをレジリエンシーリンクと呼びます。レジリエンシーリンクは状態確認にだけ使用され、ネットワークトラフィックの転送には使用されません。
レジリエンシーリンクの使用は、AT-StackXS/1.0使用時は必須、AT-StackOP/0.3・AT-StackOP/9.0使用時は任意となります。

- 1 各スイッチにスタックモジュールを取り付けます。

 参照 33ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」

- 2 各スイッチを適切なケーブルでリング状に接続し、スタックリンクを形成します。
スイッチ間を接続するときは、必ず番号の異なるスタックポート同士を接続するようにしてください。

たとえばスイッチA、Bの2台構成の場合は、スイッチAのスタックポート1（S1）をスイッチBのスタックポート2（S2）に、スイッチBのスタックポート1（S1）をスイッチAのスタックポート2（S2）に接続します。



スタックリンクに冗長性を持たせ、耐障害性を高めるため、通常はケーブルをリング状に接続することをおすすめします。

光ポート (AT-StackOP/0.3・AT-StackOP/9.0)

光ファイバーケーブルはLCコネクタが装着されたものをご用意ください。
光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。一方の機器のTXをもう一方の機器のRXに、一方の機器のRXをもう一方の機器のTXに接続してください。

- 1 スタックポートに光ファイバーケーブルのコネクタを差し込みます。
- 2 光ファイバーケーブルのもう一端のコネクタを接続先機器のスタックポートに差し込みます。



銅スタックモジュールはモジュールとケーブルが一体型です。接続手順については、33ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」をご覧ください。

2.8 コンソールを接続する

本製品に設定を行うためのコンソールを接続します。

本製品のコンソールポートはRJ-45コネクタを使用しています。弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用して、本体前面コンソールポートとコンソールのシリアルポート（またはUSBポート）を接続します。



注意 CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2を使用した接続以外は動作保証をいたしませんのでご注意ください。

コンソール

コンソールには、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するコンピューター、または非同期のRS-232インターフェースを持つVT100互換端末を使用してください。



ヒント 通信ソフトウェアの設定については、50ページ「コンソールターミナルを設定する」で説明します。

ケーブル

ケーブルは弊社販売品のCentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2をご使用ください。

○ CentreCOM VT-Kit2 plus: マネージメントケーブルキット

以下のコンソールケーブルが3本セットになっています。

- ・D-Sub 9ピン(オス)/D-Sub 9ピン(メス)
- ・RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)
- ・D-Sub 9ピン(オス)/USB

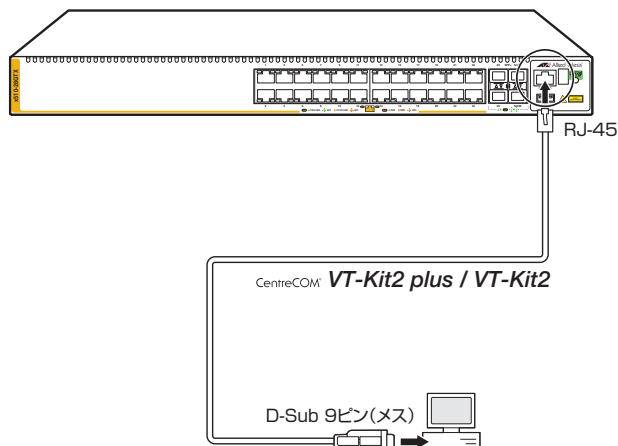
ご使用のコンソールのシリアルポート(D-Sub 9ピン)またはUSBポートへの接続が可能です。なお、USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

○ CentreCOM VT-Kit2: RJ-45/D-Sub 9ピン(メス)変換RS-232ケーブル

2.8 コンソールを接続する

接続のしかた

- 1 本製品のコンソールポートにコンソールケーブルのRJ-45コネクタ側を接続します。
- 2 コンソールケーブルのD-Subコネクタ側をコンソールのシリアルポートに接続します。



ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタを用意してください。

2.9 電源ケーブルを接続する

本製品は、電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

ケーブル

本製品では、次の電源ケーブルを使用できます。

- 同梱の電源ケーブル (AC100V用)
- オプション (別売) のL字型コネクタ電源ケーブル (AC100V用)
AT-PWRCBL-J01L
AT-PWRCBL-J01R (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ)



同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。



オプション (別売) のL字型コネクタ電源ケーブルと同梱の電源ケーブル抜け防止フックは同時に使用できません (L字型コネクタ電源ケーブルは、同梱の電源ケーブルに比べて抜けにくいケーブルです)。

接続のしかた



本製品を接地された19インチラックに搭載するときは、電源のアースは19インチラックと同等の場所から取るようにしてください。

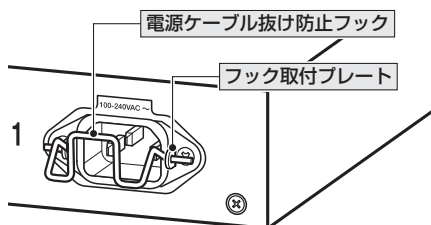


電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあげてください。



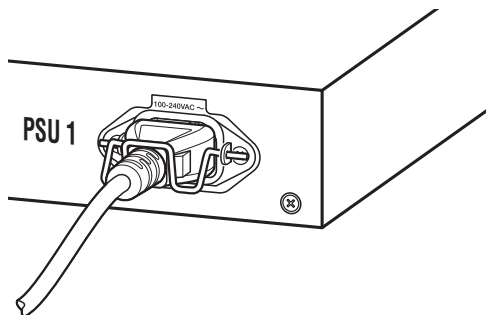
PSU 1 (右側) と PSU 2 (左側) の2つの電源コネクタに機能的な違いはありません。電源を二重化しない場合、どちらの電源コネクタを使ってもかまいません。

- 7 同梱の電源ケーブル抜け防止フックを電源コネクタのフック取付プレートに取り付けます。

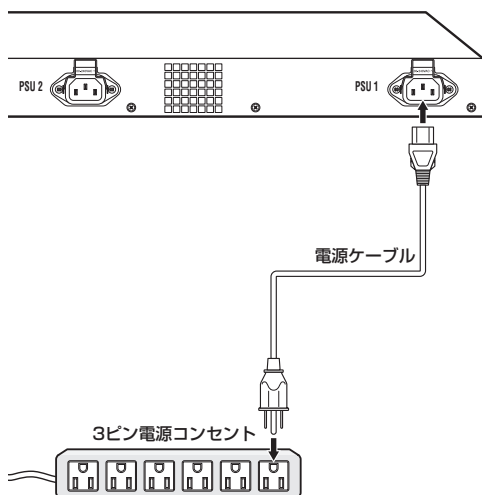


2.9 電源ケーブルを接続する

- 2 電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 3 電源ケーブル抜け防止フックで電源ケーブルが抜けないようにロックします。



- 4 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。



- 5 電源が入ると、ステータス(7セグメント)LEDが点灯します。
本製品起動中は「8.」、初期設定の状態では本製品を単体で起動した場合は、起動後「1」が点灯します。初期設定でVCS機能は有効化されており、スタックメンバーIDとして「1」が割り当てられます。

参照 24ページ「LED表示」

電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。

システム電源を二重化する場合

本製品は筐体内での電源の二重化が可能です。

電源を二重化する場合は、「接続のしかた」の手順1～4を繰り返して、2個目の電源コネクタに電源ケーブルを接続してください。

サーキットブレーカーの遮断などによる商用電源の供給停止を防ぐには、各電源コネクタに接続されている2本の電源ケーブルを異なる系統の電源設備に接続してください。

通常運用時には、PSU 1とPSU 2の両方の電源コネクタから同時に本製品への電源供給が行われます。

一方の電源に異常が発生した場合は、もう一方の電源で給電を継続します。どちらの電源に異常が発生しているかは、CLI上のshow system environmentコマンド（非特権EXECモード）で確認できます。

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXで電源を二重化する場合

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXは、2個目の電源コネクタを接続した時点で、PoEの最大供給電力が185Wから370Wに増幅します。

AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXで電源を二重化する場合は、PoE電源の電力使用量(総量)が電源1個分の185Wを上回らないように、受電機器の接続を制限してください。

power-inline usage-thresholdコマンド（グローバルコンフィグモード）で、電力使用量を監視するためのしきい値を設定することができます。最大供給電力に対する割合（％）を指定することにより、ログメッセージの出力およびSNMPトラップの送信のしきい値を設定できますので、185Wを最大供給電力として、割合（％）を設定することをおすすめします（初期値は80%ですので、最大供給電力を185Wとする場合は40%に設定します）。

実際の最大供給電力は370Wですので、なんらかの理由でPoE電源の電力使用量が185Wを超えてもポートへの給電は継続されます。また、PoE LEDも370Wを上回るまでは、橙点減しませんので、ご注意ください。

2.10 設定の準備

コンソールターミナルを設定する

本製品に対する設定は、管理用端末から本製品の管理機構であるコマンドラインインターフェース (CLI) にアクセスして行います。

管理用端末には、次のいずれかを使用します。

- コンソールポートに接続したコンソールターミナル
- ネットワーク上の Telnet クライアント
- ネットワーク上の Secure Shell (SSH) クライアント

コンソールターミナル (通信ソフトウェア) に設定するパラメーターは次のとおりです。「エミュレーション」、「BackSpace キーの送信方法」は edit コマンド (特権 EXEC モード) のための設定です。

項目	値
通信速度	9,600bps
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	ハードウェア
エミュレーション	VT100
BackSpace キーの送信方法	Delete



通信ソフトウェアとして、Windows 2000/XP に標準装備のハイパーターミナルを使用する場合は、65 ページ「ハイパーターミナルの設定」を参照してください。



Telnet/SSH を使用するには、あらかじめコンソールターミナルからログインし、本製品に IP アドレスなどを設定しておく必要があります。本製品のご購入時には IP アドレスが設定されていないため、必ず一度はコンソールターミナルからログインすることとなります。

また、SSH を使用する場合は、本製品の SSH サーバーを有効化するための設定も必要です。SSH サーバーの設定については「コマンドリファレンス」をご覧ください。

54 ページ「IP インターフェースを作成する」

67 ページ「Telnet クライアントの設定」

コマンドリファレンス / 運用・管理 / Secure Shell

本製品を起動する

- 1** コンピューター（コンソール）の電源を入れ、ハイパーターミナルなどの通信ソフトウェアを起動します。

- 2** 本製品の電源を入れます。

 47ページ「電源ケーブルを接続する」

- 3** 自己診断テストの実行後、システムソフトウェアが起動し、起動時コンフィグが実行されます。

参照 58ページ「自己診断テストの結果を確認する」

```

Loading flash:x510-5.4.3.rel...
Verifying release... OK
Booting...
Starting base/first...
Mounting virtual filesystems...

[ OK ]

[ OK ]

Allied Telesis Inc.
AlliedWare Plus (TM) v5.4.3
Original release filename: x510-5.4.3.rel
Built: Sat Sep 22 04:12:17 NZST 2012 by: maker@maker07-build
Mounting static filesystems...

[ OK ]

...

Starting network/election.timeout...
Received event network.enabled

[ OK ]

Initializing HA processes:
openhpid, hostd, cntrd, auth, imiproxyd, lldpd, mstp
nsm, ripngd, rmon, sflowd, vrrpd, bgpd, epsr
hsl, imi, irdpd, lacpd, loopprot, ospf6d, ospfd
pdmd, pimd, ripd, udldd

Received event network.initialized
00:28:13 awplus-1 VCS[727]: No neighboring members found, unit may be in a
standalone configuration
Received event vcs.elected-master
00:28:13 awplus-1 VCS[727]: Startup speed can be improved by adding 'no stack 1
enable' to configuration
00:28:13 awplus-1 VCS[727]: Member 1 (0000.f427.75b1) has become the Active
Master

Assigning Active Workload to HA processes:
hsl, irdpd, lacpd, lldpd, loopprot, mstp, nsm
pdmd, ripd, rmon, sflowd, vrrpd, authd, bgpd
epsrd, ospf6d, ospfd, pimd, ripngd, imi, imiproxyd

Received event network.activated

Loading default configuration
Warning: flash:/default.cfg does not exist, loading factory defaults.
...

done!
Received event network.configured

awplus login:

```

- 4** 本製品起動後、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

2.11 操作の流れ

本製品に設定を行う際の操作の流れについて説明します。

設定方法についての詳細は、弊社ホームページに掲載の「コマンドリファレンス」をご覧ください。「コマンドリファレンス」の「運用・管理 / システム」で、システム関連の基本的な操作や設定方法について順を追って説明しています。初期導入時には、まずはじめに「運用・管理 / システム」を参照してください。

ファームウェアの更新手順についても「運用・管理 / システム」に説明があります。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ファームウェアの更新手順

STEP 1 コンソールを接続する

コンソールケーブル (CentreCOM VT-Kit2 plus、またはCentreCOM VT-Kit2) で、コンソールポートとコンソールのシリアルポートを接続します。

 **参照** 45ページ「コンソールを接続する」



STEP 2 コンソールターミナルを設定する

コンソールの通信ソフトウェアを本製品のインターフェース仕様に合わせて設定します。

 **参照** 50ページ「コンソールターミナルを設定する」



STEP 3 ログインする

「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。
ユーザー名は「manager」、初期パスワードは「friend」です。
ユーザー名、パスワードは大文字小文字を区別します。

awplus login: **manager** ...「manager」と入力して **[Enter]**キーを押します。

Password: **friend** ...「friend」と入力して **[Enter]**キーを押します。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ログイン



STEP 4 設定をはじめめる (コマンドモード)

コマンドラインインターフェースで、本製品に対して設定を行います。
本製品のコマンドラインインターフェースには「コマンドモード」の概念があります。各コマンドはあらかじめ決められたモードでしか実行できないため、コマンドを実行するときは適切なモードに移動し、それからコマンドを入力することになります。

○ ログイン直後は「**非特権 EXEC モード**」です。

awplus login: **manager** **[Enter]**
Password: **friend** **[Enter]** (実際には表示されません)

AlliedWare Plus (TM) 5.4.3 12/10/12 18:57:58
awplus>

コマンドプロンプト末尾の「>」が、非特権EXECモードであることを示しています。



非特権EXECモードでは、原則として情報表示コマンド (show xxxx) の一部しか実行できません。

- 非特権EXECモードでenableコマンドを実行すると、「**特権EXECモード**」に移動します。

```
awplus> enable [Enter]
awplus#
```

コマンドプロンプト末尾の「#」が、特権EXECモードであることを示しています。
特権EXECモードでは、すべての情報表示コマンド (show xxxx) が実行できるほか、システムの再起動や設定保存、ファイル操作など、さまざまな「実行コマンド」(コマンドの効果がその場合ぎりであるコマンド。ネットワーク機器としての動作を変更する「設定コマンド」と対比してこう言う)を実行することができます。

- 特権EXECモードでconfigure terminalコマンドを実行すると、「**グローバルコンフィグモード**」に移動します。

```
awplus# configure terminal [Enter]
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
awplus(config)#
```

コマンドプロンプト末尾の「(config)#」が、グローバルコンフィグモードであることを示しています。

グローバルコンフィグモードは、システム全体にかかわる設定コマンドを実行するためのモードです。本解説編においては、ログインパスワードの変更やホスト名の設定、タイムゾーンの設定などをこのモードで行います。

実際には、ここに示した3つのほかにも多くのコマンドモードがあります。詳細については、「コマンドリファレンス」をご覧ください。

 **コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード**



STEP 5 各種設定を行う(コマンド入力例)

以下にコマンドの入力例を示します。

- **ユーザーアカウントを作成する**(グローバルコンフィグモード)

権限レベル15のユーザー「zein」を作成する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# username zein privilege 15 password xyzxyzxyz [Enter]
```

 **コマンドリファレンス / 運用・管理 / ユーザー認証 / ユーザーアカウントの管理**

- **ログインパスワードを変更する**(グローバルコンフィグモード)

ログイン後、managerアカウントのパスワードを変更する。パスワードは「xyzxyzxyz」。

```
awplus(config)# usernam manager password xyzxyzxyz [Enter]
```

 **コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / パスワードの変更**



2.11 操作の流れ

○ ホスト名を設定する(グローバルコンフィグモード)

ホスト名として「myswitch」を設定する。

```
awplus(config)# hostname myswitch Enter  
myswitch(config)#
```

コマンド実行とともに、コマンドプロンプトの先頭が「awplus」から「myswitch」に変更されます。

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / ホスト名の設定

○ IP インターフェースを作成する

vlan1 に IP アドレス 192.168.10.1/24 を設定する。

```
myswitch(config)# interface vlan1 Enter  
myswitch(config-if)# ip address 192.168.10.1/24 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP ルーティング / IP インターフェース

デフォルトゲートウェイとして 192.168.10.5 を設定する。

```
myswitch(config-if)# exit Enter  
myswitch(config)# ip route 0.0.0.0/0 192.168.10.5 Enter
```

 **参照** コマンドリファレンス / IP ルーティング / 経路制御

○ システム時刻を設定する

本製品は電池によってバックアップされる時計(リアルタイムクロック)を内蔵しており、起動時には内蔵時計から現在時刻を取得してシステム時刻が再現されます。

ログなどの記録日時を正確に保つため、システム時刻は正確に合わせて運用することをおすすめします。

タイムゾーンを日本標準時(JST。UTCより9時間進んでいる)に設定する(グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch(config)# clock timezone JST plus 9 Enter
```

システム時刻(日付と時刻)を「2012年10月12日 17時5分0秒」に設定する(特権EXECモード)。

```
myswitch(config)# exit Enter  
myswitch# clock set 17:05:00 12 Oct 2012 Enter
```

NTPを利用して時刻を自動調整する場合は、NTPサーバーの設定をします。

NTPサーバーのIPアドレスを指定する(グローバルコンフィグモード)。

```
myswitch# configure terminal Enter  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
myswitch(config)# ntp server 192.168.10.2 Enter  
Translating "192.168.10.2"... [OK]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / システム時刻の設定



STEP 6 設定を保存する

設定した内容を保存します。

ランニングコンフィグ(現在の設定内容)をスタートアップコンフィグ(起動時コンフィグ)にコピーして保存します。

copy コマンドの代わりにwrite file コマンドやwrite memory コマンドを使うこともできます。

```
myswitch# copy running-config startup-config [Enter]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / 設定の保存



STEP 7 ログアウトする

コマンドラインインターフェースでの操作が終了したら、ログアウトします。

```
myswitch# exit [Enter]
```

 **参照** コマンドリファレンス / 運用・管理 / システム / コマンドモード

3

付 録

この章では、トラブル解決、WindowsのハイパーターミナルとTelnetアプリケーションの使用方法、本製品の仕様、保証とユーザーサポートについて説明しています。

モジュールごとに、下記の3つステータスで結果が表示されます。

OK	該当のモジュールが正常にロードされました
INFO	該当のモジュールでエラーが発生しています。ただし、本製品の動作は可能な状態です
ERROR	該当のモジュールでエラーが発生し、本製品の動作に影響がでる可能性があります

上記以外に、特定の情報がINFOまたはERRORで起動メッセージ内に表示される場合があります。



起動メッセージは、本製品にTelnetでログインしているときは表示されません。

LED 表示を確認する

LEDの状態を観察してください。LEDの状態は問題解決に役立ちますので、お問い合わせの前にどのように表示されるかを確認してください。

 24ページ「LED表示」

ログを確認する

本製品が生成するログを見ることにより、原因を究明できる場合があります。メモリーに保存されているログ、すなわち、bufferedログ(RAM上に保存されたログ)とpermanentログ(NVSに保存されたログ)の内容を見るには、それぞれ特権EXECモードのshow logコマンド、show log permanentコマンドを使います。



これらのコマンドは、グローバルコンフィグモードでも実行可能です。

```
awplus# show log Enter

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>
-----
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel: epi3ReadData - detected valid EPI3
dat
a
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel: Zone PFN ranges:
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel:   DMA             0 ->   131072
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel:   Normal         131072 ->   131072
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel: early_node_map[1] active PFN ranges
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel:     0:             0 ->   131072
2012 Oct  8 23:38:49 user.warning kernel: Built 1 zonelists. Total pages:
13004
8
2012 Oct  8 23:38:49 user.emerg kernel: The Bootloader on this device is out of
date. Please consider upgrading to version 1.0.7 or newer
...
```

3.1 困ったときに

本製品が生成するログメッセージは次の各フィールドで構成されています。

<date> <time> <facility>.<severity> <program[<pid>]>: <message>

各フィールドの意味は次のとおりです。

フィールド名	説明
date	メッセージの生成日付
time	メッセージの生成時刻
facility	ファシリティ。どの機能グループに関連するメッセージかを示す (別表を参照)
severity	ログレベル。メッセージの重大さを示す (別表を参照)
program[pid]	メッセージを生成したプログラムの名前とプロセスID (PID)
message	メッセージ本文

ファシリティ (facility) には次のものがあります。

名称	説明
auth	認証サブシステム
authpriv	認証サブシステム (機密性の高いもの)
cron	定期実行デーモン (crond)
daemon	システムデーモン
ftp	ファイル転送サブシステム
kern	カーネル
lpr	プリンタースプーラーサブシステム
mail	メールサブシステム
news	ネットニュースサブシステム
syslog	syslog デーモン (syslogd)
user	ユーザプロセス
uucp	UUCPサブシステム

ログレベル (severity) には次のものがあります。

各レベルには番号と名称が付けられており、番号は小さいほど重大であることを示します。

数字	名称	説明
0	emergencies	システムが使用不能であることを示す
1	alerts	ただちに対処を要する状況であることを示す
2	critical	重大な問題が発生したことを示す
3	errors	一般的なエラーメッセージ
4	warnings	警告メッセージ
5	notices	エラーではないが、管理者の注意を要するかもしれないメッセージ
6	informational	通常運用における詳細情報
7	debugging	きわめて詳細な情報

トラブル例

電源ケーブルを接続してもステータス(7セグメント)LEDが点灯しない

正しい電源ケーブルを使用していますか

同梱の電源ケーブルはAC100V用です。AC200Vで使用する場合は、設置業者にご相談ください。

電源ケーブルが正しく接続されていますか

電源コンセントには、電源が供給されていますか

別の電源コンセントに接続してください。

ステータス(7セグメント)LEDは点灯するが、正しく動作しない

電源をオフにしたあと、すぐにオンにしていますか

電源をオフにしてから再度オンにする場合は、しばらく間をあけてください。

ケーブルを接続してもL/A LEDが点灯しない

接続先の機器の電源は入っていますか

ネットワークインターフェースカードに障害はありませんか

通信モードは接続先の機器と通信可能な組み合わせに設定されていますか

speedコマンドおよびduplexコマンド(インターフェースモード)でポートの通信モードを設定することができます。接続先の機器を確認して、通信モードが正しい組み合わせになるように設定してください。

正しいUTPケーブルを使用していますか

○ UTPケーブルのカテゴリ

10BASE-Tの場合はカテゴリ 3以上、100BASE-TXの場合はカテゴリ 5以上、1000BASE-Tの場合はエンハンスト・カテゴリ 5以上のUTPケーブルを使用してください。

○ UTPケーブルのタイプ

MDI/MDI-X自動認識機能により、接続先のポートの種類(MDI/MDI-X)にかかわらず、ストレート/クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。本製品のMDI/MDI-X自動認識機能は、ポートの通信速度、デュプレックスの設定にかかわらず、どの通信モードでも有効にすることができます。

○ UTPケーブルの長さ

ケーブル長は最大100mと規定されています。

 37ページ「ネットワーク機器を接続する」

3.1 困ったときに

正しい光ファイバーケーブルを使用していますか

○ 光ファイバーケーブルのタイプ

マルチモードファイバーの場合は、コア/クラッド径が50/125 μm (ITU-T G.651 準拠)、または62.5/125 μm のものを使用してください。

シングルモードファイバーの場合は、ITU-T G.652 準拠のものを使用してください。

SFP/SFP+/スタックモジュールの種類によって、使用する光ファイバーが異なります。マルチモードファイバーが使用できるのは、AT-SPSX、AT-SPSX2、AT-SPLX10、AT-SPBDM-A/B、AT-SP10SRのみですので、ご注意ください。

なお、AT-SPLX10の接続にマルチモードファイバーを使用する場合は、対応するモード・コンディショニング・パッチコードを使用してください。また、AT-SPLX40、AT-SPZX80、AT-SPBD80-A/Bは、使用環境によっては、アッテネーターが必要となる場合があります。

○ 光ファイバーケーブルの長さ

最大伝送距離は、37ページ「ネットワーク機器を接続する」でご確認ください。光ファイバーケーブルの仕様や使用環境によって伝送距離が異なりますので、ご注意ください。

○ 光ファイバーケーブルは正しく接続されていますか

AT-SPBDシリーズ以外のSFP/SFP+で使用する光ファイバーケーブルは2本で1対になっています。本製品のTXを接続先の機器のRXに、本製品のRXを接続先の機器のTXに接続してください。

AT-SPBDシリーズは、送受信で異なる波長の光を用いるため、1本の光ファイバーケーブルで通信ができます。

 **参照** 37ページ「ネットワーク機器を接続する」

エコLEDに設定されていませんか

本体前面LED ON/OFFボタンの設定を確認してください。LED OFFに設定すると、ステータスLED (7セグメントLEDの横セグメント) を除くすべてのLEDが消灯します。

 **参照** 24ページ「LED表示」

正しいモジュールを使用していますか (SFP+スロットの末尾2ポート)

AT-x510-28GTX/GPXのポート27、28、AT-x510-52GTX/GPXのポート51、52は、拡張用のスイッチポートとVCS用のスタックポートとの兼用ポートです。

CLI上で、VCS機能を有効に設定するとスタックポートに、無効に設定するとスイッチポートになります。

VCS機能有効時にSFP/SFP+、あるいはVCS無効時にスタックモジュールという誤った組み合わせでモジュールを装着すると、エラーになり該当ポートは無効化されます。

VCS機能の有効・無効を確認して、正しいモジュールを装着してください。

 **参照** 33ページ「SFP/SFP+/スタックモジュールを取り付ける」

L/A LEDは点灯するが、通信できない

ポートが無効 (Disabled) に設定されていませんか

show interface コマンド (非特権 EXEC モード) でポートステータス (administrativestate)を確認してください。

無効に設定されているポートを有効化するには、shutdownコマンド (インターフェイスモード)をno形式で実行してください。

PoE給電ができない

PoE給電機能が無効に設定されていませんか

show power-inline コマンド (非特権 EXEC モード) でPoE給電機能の有効・無効 (Admin)を確認してください。

PoEポートの出力電力が設定された上限値を上回っていませんか

show power-inline コマンド (非特権 EXEC モード) でポートの出力電力上限値 (Max (mW))を確認してください。

 40ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回っていませんか

AC電源 × 2個使用時：クラス4受電機器は最大12ポート、クラス3受電機器は最大24ポート、クラス2受電機器は最大48ポート同時に給電ができます。

AC電源 × 1個使用時：クラス4受電機器は最大6ポート、クラス3受電機器は最大12ポート、クラス2受電機器は最大26ポート同時に給電ができます。

PoE電源の電力使用量が最大供給電力を上回ると、power-inline priority コマンド (インターフェイスモード) でプライオリティを設定している場合、優先度の低い「low」のポートから、同一プライオリティの場合はポート番号の一番大きいポートから給電を停止します。

 40ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

正しいUTPケーブルを使用していますか

IEEE 802.3at 対応のPoE受電機器を接続する場合は、エンハンスト・カテゴリー5以上のUTPケーブルを使用してください。

 40ページ「PoE対応の受電機器を接続する」

3.1 困ったときに

コンソールターミナルに文字が入力できない

ケーブルや変換コネクタが正しく接続されていますか

本製品のコンソールポートは、RJ-45コネクタを使用しています。ケーブルは弊社販売品の「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」を使用してください。ご使用のコンソールのシリアルポートがD-Sub 9ピン（オス）以外の場合は、別途変換コネクタをご用意ください。

なお、「CentreCOM VT-Kit2 plus」は、USBポートへの接続が可能です。USBポート使用時の対応OSは弊社ホームページにてご確認ください。

 **参照** 45ページ「コンソールを接続する」

通信ソフトウェアを2つ以上同時に起動していませんか

同一のCOMポートを使用する通信ソフトウェアを複数起動すると、COMポートにおいて競合が発生し、通信できない、または不安定になるなどの障害が発生します。

通信ソフトウェアの設定内容（通信条件）は正しいですか

本製品を接続しているCOMポート名と、通信ソフトウェアで設定しているCOMポート名が一致しているかを確認してください。

また、通信速度（ボーレート）の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。本製品の通信速度は9600bpsです。

コンソールターミナルで文字化けする

COMポートの通信速度は正しいですか

通信速度（ボーレート）の設定が本製品とCOMポートで一致しているかを確認してください。COMポートの設定が9600bps以外に設定されていると文字化けを起こします。

文字入力モードは英数半角モードになっていますか

全角文字や半角カナは入力しないでください。通常、AT互換機では`[Alt]`キーを押しながら`[全角/半角]`キーを押して入力モードの切り替えを行います。

3.2 ハイパーターミナルの設定

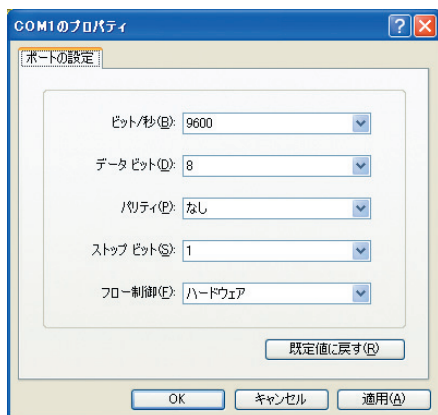
コンソールターミナルとして、Windows 2000/XPに標準装備のハイパーターミナルを使用する例を示します。

(コンソールケーブル「CentreCOM VT-Kit2 plus」、または「CentreCOM VT-Kit2」は、COM1に接続すると仮定します。)



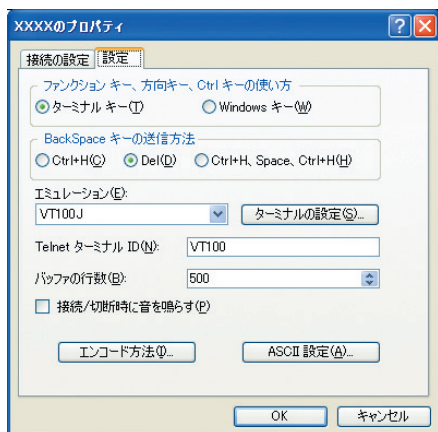
お使いのOSによっては、ハイパーターミナルが標準添付されていないことがあります。別途、コンソールターミナル(通信ソフトウェア)をご用意ください。

- 1 ハイパーターミナルを起動します。
[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム (すべてのプログラム)] をポイントします。次に [アクセサリ] をポイントし、[通信] をポイントします。次に [ハイパーターミナル] をクリックします。
- 2 [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[名前] ボックスで名前を入力し、[アイコン] ボックスでアイコンを選んで、[OK] をクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- 3 接続方法を設定します。
Windows 2000の場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[Com1へダイレクト] を選択して、[OK] をクリックします。
Windows XPの場合- [接続の設定] ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] ボックスで、[COM1] を選択して、[OK] をクリックします。
- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
各項目を下図のように設定して、[OK] をクリックします。
(下の画面はWindows XPの場合)



3.2 ハイパーターミナルの設定

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル (HyperTerminal)」のような、手順2で設定した名前のウィンドウが表示されます。
- [ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。次に [設定] タブをクリックし、各項目を下図のように設定し、[OK] をクリックします。
- (下の画面は Windows XP の場合)



- 6 以上で、設定が終わりました。
- 本製品に電源を入れると、自己診断テストの実行後、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

3.3 Telnet クライアントの設定

本製品はTelnet サーバーを内蔵しているため、他のTelnetクライアントからネットワーク経由でログインすることができます。

ここでは、Windows 2000/XPのTelnetクライアントの設定方法を説明します。



ヒント

Telnetを使用する場合は、あらかじめコンソールターミナルで本製品にIPアドレスを割り当てておく必要があります。



参照 54ページ「IPインターフェースを作成する」

1 ネットワークに合わせてTCP/IPプロトコルの環境設定を行います。

Windows 2000の場合-[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に[コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

Windows XPの場合-[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をポイントします。次に[ネットワークとインターネット接続] アイコンをクリックし、[ネットワーク接続] アイコンをクリックします。次に[ローカルエリア接続] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。

[インターネットプロトコル(TCP/IP)] をクリックし、[プロパティ] をクリックして、設定を行います。

各製品に添付されているマニュアルをご覧ください。IPアドレスなどを正しく設定してください。

2 Telnetクライアントを起動します。

[スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET」と入力して、[OK] をクリックします。[名前] ボックスで「TELNET 192.168.200.1」のように、TELNETに続けて本製品のIPアドレスを指定することもできます。

3 ターミナルの設定を行います。

次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。

```
Microsoft Telnet> SET TERM VT100
```

4 本製品のTelnetサーバーに接続します。

次のコマンドを入力して、[Enter] キーを押します。OPEN に続けて本製品のIPアドレスを指定します。

```
Microsoft Telnet> OPEN 192.168.200.1
```

5 以上で、設定が終わりました。

Telnetセッションが確立すると、「awplus login:」プロンプトが表示されます。

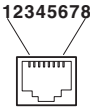
3.4 仕 様

ここでは、コネクターのピンアサインやケーブルの結線、電源部や環境条件など本製品の仕様について説明します。

コネクタ・ケーブル仕様

10/100/1000BASE-T (PoE) インターフェース

RJ-45型のモジュージャックを使用しています。

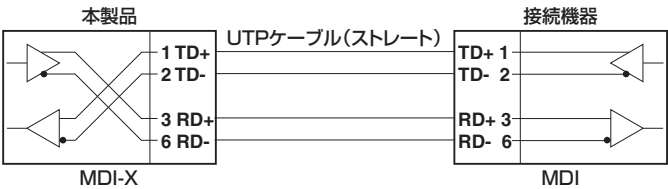


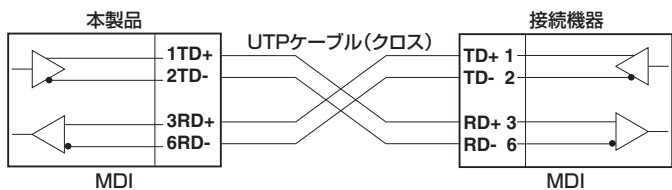
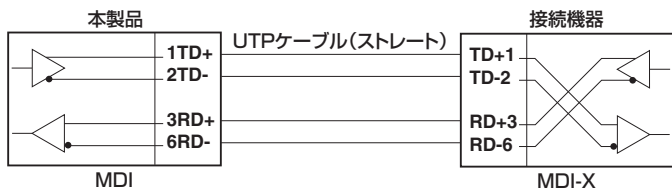
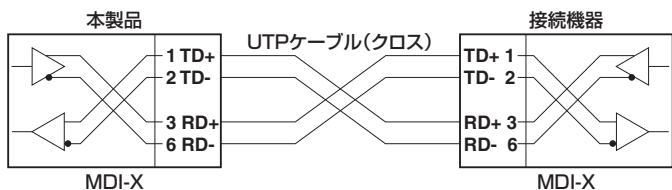
コンタクト	1000BASE-T		10BASE-T/100BASE-TX	
	MDI	MDI-X	MDI信号	MDI-X信号
1	BI_DA +	BI_DB +	TD + (送信)	RD + (受信)
2	BI_DA -	BI_DB -	TD - (送信)	RD - (受信)
3	BI_DB +	BI_DA +	RD + (受信)	TD + (送信)
4	BI_DC +	BI_DD +	未使用	未使用
5	BI_DC -	BI_DD -	未使用	未使用
6	BI_DB -	BI_DA -	RD - (受信)	TD - (送信)
7	BI_DD +	BI_DC +	未使用	未使用
8	BI_DD -	BI_DC -	未使用	未使用

コンタクト	PoE
	オルタナティブA
1	-V
2	-V
3	+V
4	未使用
5	未使用
6	+V
7	未使用
8	未使用

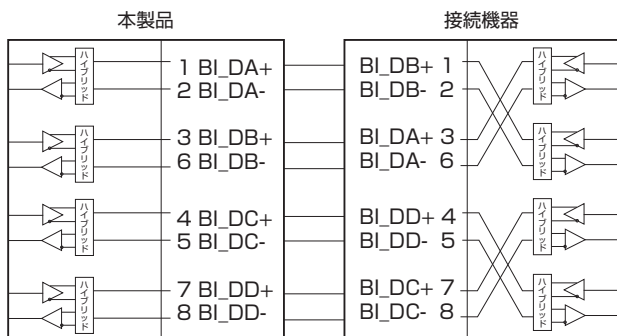
ケーブルの結線は下図のとおりです。

○ 10BASE-T/100BASE-TX





○1000BASE-T



3.4 仕 様

RS-232 インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。



RS-232 DCE	信号名 (JIS 規格)	信号内容
1	RTS (RS)	送信要求
2	NOT USED	未使用
3	TXD (SD)	送信データ
4	GND (SG)	信号用接地
5	GND (SG)	信号用接地
6	RXD (RD)	受信データ
7	NOT USED	未使用
8	CTS (CS)	送信可

USB インターフェース

USB 2.0 のタイプ A (メス) コネクタを使用しています。

本製品の仕様

—	AT-x510-28GTX	AT-x510-52GTX	AT-x510-28GPX	AT-x510-52GPX
準拠規格				
	IEEE 802.3 10BASE-T IEEE 802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3ab 1000BASE-T IEEE 802.3z 1000BASE-SX/LX IEEE 802.3ah 1000BASE-BX10 IEEE 802.3ae 10GBASE-LR/SR IEEE 802.3x Flow Control IEEE 802.3af Power over Ethernet (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ) IEEE 802.3at Power over Ethernet+ (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ) IEEE 802.1ax-2008 Link Aggregation (static and dynamic)※ ¹ IEEE 802.1Q-2003 GVRP IEEE 802.1D-2004 Spanning Tree, Rapid Spanning Tree※ ² IEEE 802.1Q-2005 VLAN Tagging, Multiple Spanning Tree※ ³ IEEE 802.1X Port Based Network Access Control IEEE 802.1p Class of Service, priority protocol IEEE 802.1AB Link Layer Discovery Protocol			
適合規格				
CE				
安全規格	UL60950-1, CSA-C22.2 No.60950-1			
EMI規格	VCCIクラスA			
EU RoHS 指令				
電源部				
定格入力電圧	AC100-240V	AC100-240V	AC100-240V	AC100-240V
入力電圧範囲	AC90-264V	AC90-260V	AC90-264V	AC90-264V
定格周波数	50/60Hz	50/60Hz	50/60Hz	50/60Hz
定格入力電流	1.1A	1.1A	6.5A	6.8A
最大入力電流 (実測値)	0.97A	0.96A	5.9A	6.1A
平均消費電力	41W (最大52W)※ ⁴	69W (最大86W)※ ⁴	260W (最大530W)※ ⁴	270W (最大550W)※ ⁴
平均発熱量	150kJ/h (最190kJ/h)※ ⁴	240kJ/h (最大310kJ/h)※ ⁴	940kJ/h (最1900kJ/h)※ ⁴	990kJ/h (最2000kJ/h)※ ⁴
PoE				
給電方式	—		オルタナティブA	
最大供給電力	—		装置全体: AC電源×2個使用時: 370W AC電源×1個使用時: 185W	
	—		1ポートあたり: 30W	
環境条件				
保管時温度	-20～60℃			
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)			
動作時温度	0～45℃			
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)			
外形寸法				
	441 (W) × 323 (D) × 44 (H) mm		441 (W) × 398 (D) × 44 (H) mm	
質量				
	4.5kg	5.2kg	5.7kg	6.2kg
スイッチング方式				
	ストア&フォワード			
MACアドレス登録数				
	16K (最大)			

3.4 仕様

—	AT-x510-28GTX	AT-x510-52GTX	AT-x510-28GPX	AT-x510-52GPX
メモリー容量				
パケットバッファ容量	2MByte	4MByte	2MByte	4MByte
フラッシュメモリー容量	64MByte	64MByte	64MByte	64MByte
メインメモリー容量	512MByte	512MByte	512MByte	512MByte
USBポート				
コネクタ	タイプA(メス)			
最大給電電流	500mA			
USB	USB2.0			
サポートするMIB				
	MIB II(RFC1213) IP フォワーディングテーブルMIB(RFC2096) 拡張ブリッジMIB(RFC2674) ^{*5} RMON MIB(RFC2819[1,2,3,9グループ]) インターフェース拡張グループMIB(RFC2863) SNMPv3 MIB(RFC3411～RFC3415) SNMPv2 MIB(RFC3418) PoE MIB(RFC3621) (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ) イーサネットMIB(RFC3635) 802.3 MAU MIB(RFC3636) ブリッジMIB(RFC4188) RSTP MIB(RFC4318) DISMAN ping MIB(RFC4560) LLDP MIB(IEEE 802.1AB) LLDP-MED MIB(ANSI/TIA-1057) (AT-x510-28GPX / AT-x510-52GPXのみ) プライベートMIB			

※ 1 IEEE 802.3ad と同等

※ 2 IEEE 802.1w Rapid Spanning Tree を含む

※ 3 IEEE 802.1s Multiple Spanning Tree を含む

※ 4 AT-SP10LR×4個 使用時

※ 5 Q-BRIDGE-MIB のみサポート

3.5 保証とユーザーサポート

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレスিস株式会社 修理受付窓口

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/repair/>

Tel: ☎ 0120-860332

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6218

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)につきましても、弊社はその責を一切負わないものとします。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレスिस株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/info/>

Tel: ☎ 0120-860772

携帯電話 / PHSからは: 045-476-6203

月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1 一般事項

- サポートの依頼日
- お客様の会社、ご担当者

3.5 保証とユーザーサポート

- **ご連絡先**
すでに「サポートID番号」を取得している場合、サポートID番号をお知らせください。
サポートID番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。
- **ご購入先**

2 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

- シリアル番号 (S/N)、リビジョン (Rev) をお知らせください。
シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている（製品に同梱されている）シリアル番号シールに記載されています。

(例)  S/N 007807G104000001 A1

S/N以降のひと続きの文字列がシリアル番号、スペース以降のアルファベットで始まる文字列(上記例の「A1」部分)がリビジョンです。

- ファームウェアバージョンをお知らせください。
ファームウェアバージョンは、show system (非特権EXECモード) コマンドで表示されるシステム情報の「Software version」の項で確認できます。
- オプション (別売) 製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3 問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に (再現できるように) お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容をお知らせください。
- 可能であれば、設定ファイルをお送りください (パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4 ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図をお送りください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

ご注意

本書に関する著作権等の知的財産権は、アライドテレシス株式会社（弊社）の親会社であるアライドテレシスホールディングス株式会社が所有しています。

アライドテレシスホールディングス株式会社の同意を得ることなく、本書の全体または一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。

また、弊社は改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

© 2012-2013 アライドテレシスホールディングス株式会社

商標について

CentreCOMはアライドテレシスホールディングス株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書の中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

廃棄方法について

本製品を廃棄する場合は、法令・条例などに従って処理してください。詳しくは、各地方自治体へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

輸出管理と国外使用について

お客様は、弊社販売製品を日本国外への持ち出しまたは「外国為替及び外国貿易法」にいう非居住者へ提供する場合、「外国為替及び外国貿易法」を含む日本政府および外国政府の輸出関連法規を厳密に遵守することに同意し、必要とされるすべての手続きをお客様の責任と費用で行うことといたします。

弊社販売製品は日本国内仕様であり、日本国外においては製品保証および品質保証の対象外になり、製品サポートおよび修理など一切のサービスが受けられません。

マニュアルバージョン

2012年 10月 Rev.A 初版

2013年 3月 Rev.B AT-x510-28GPX、AT-x510-52GPX追加

